

維持管理の試験的实施について

維持管理の試験的实施：導水路の草刈

- 維持管理方針の設定や、体制づくりのために試験的に「導水路の草刈り」をし、今後の自然再生地の管理のための知見や経験を得る。
- 試験的に実施する導水路草刈りの実施時期、方法、体制は？ また、今後の管理に向けて配慮すべき事項は？
- 開放水面・湿地環境形成のための施工地では、草刈の必要性が想定される。
- 現在の試験地ではモニタリングを継続中のため、草刈の実施方法を検証するための試験措置は適用しにくい。

⇒ 導水路部分でのヨシ等の繁茂が認められるため、ここで試験的に草刈を実施する。



遷移進行



草刈を試験的に実施

草刈方法や実施体制の検討

維持管理の試験的实施：ニワウルシの対策

特定外来生物・要注意外来生物には該当しないが、問題視されるニワウルシを対象に管理の試行モデルとし、ゾーニングと、植生管理の方法について考えるケーススタディとする。

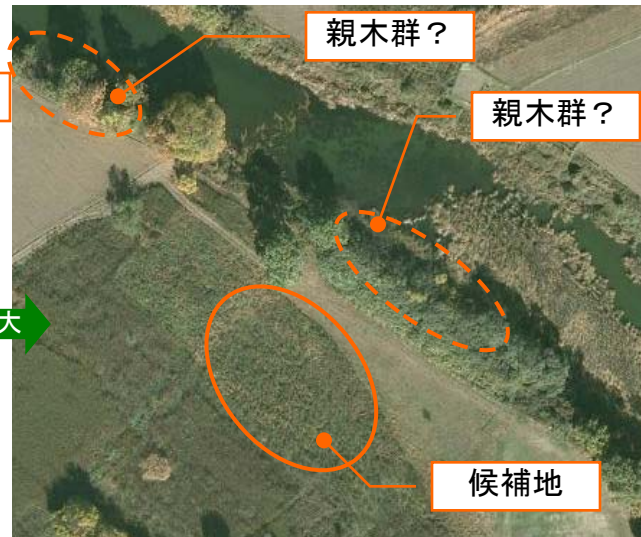
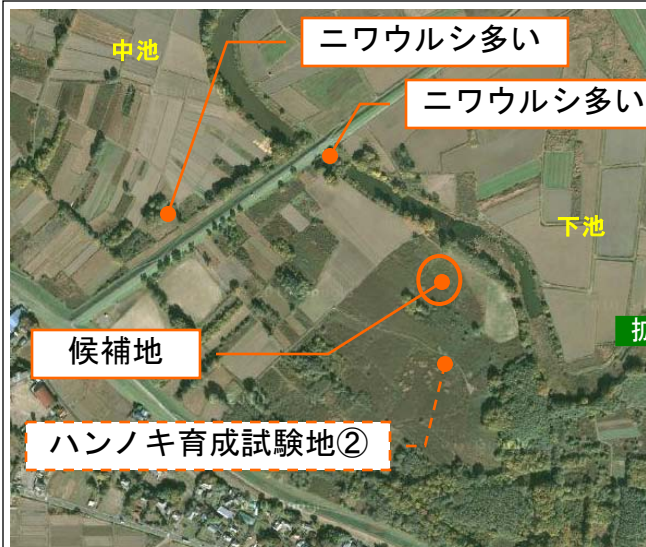
■ニワウルシ(シンジュ)の生態

・陽樹であり、明るい乾燥した伐開地に群落を作る

・種子の他に、無性的に根茎からも無性的に増殖する。(伐採されると近隣の場所に多数のシュートを形成する・毎年刈り取られても残りの期間で高さ数mにまで成長する)

*ニワウルシの生態情報は参考資料に記載

■太郎右衛門自然再生地における分布と維持管理の試行地(案)



●選定理由

1. 人力で伐採・抜根可能なサイズと思われる。
2. 開けた環境で今後も成長すると推測される。
3. 広い範囲に多数生育する。

(2+3=大きな群落になる可能性が高い)



■ 対応方針案

案①: 湿潤な場所に改変し、ニワウルシ等の乾燥地に繁茂するパイオニア植物に不利な立地条件にする。

案②: 伐採・抜根を定期的に継続する。ただし、伐採は、萌芽をかえって促す可能性がある。



*このサイズになると簡単には抜けない

維持管理の試験的实施：ニワウルシの対策

■ 試験案

案①は当面の対応が困難であるため、案②について以下の試験を行う。

●目的

- ・人力による抜根の可否サイズと所要時間を確認する。⇒作業性の確認
- ・伐採による効果を確認する。⇒萌芽更新できない最低サイズの確認
- *「人力で簡単に抜けるサイズ<伐採すればその後の更新ができない可能性が高いサイズ<動力使用で抜根する必要のあるサイズ」を判別することで今後の管理方針が明らかになる。

●試験(案)

- ・抜根可能なサイズと抜根にかかる時間を計測する。
 - ~50cm、~100cm、~150cmに3区分し、各区分10本ずつ×5人程度で平均値を計測する。
- ・根元径と樹高を計測して伐採し、マーキングして2ヶ月ごとに追跡する。伐採にかかる時間も計測する。
 - 50cmごと程度の区分で1m~5m程度までを対象に、各区分20本ずつ程度を対象とする。(計160本)
- * 男女・年齢による差異を想定して作業者を人選する。
- * 伐採試験は、その後の回復状況をなるべく同様の環境下で観察するため、路傍よりもオギやセイタカアワダチソウなどの群落内に生育する個体を対象とする。

